

「特許情報の利用拡大に向けた公的特許情報サービスのあり方に関する調査」

ヒアリングシート

本ヒアリングシートは、主に中小企業に対して知的財産に関する何らかの活動を行っている組織・団体等のご担当者様を対象とした質問事項を取りまとめています。ヒアリングの際には、本ヒアリングシートに沿ったご質問を予定しておりますので、ご参照いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、本調査では、各組織・団体等が活動を行う際に用いている特許情報（※1）及び特許情報サービス（※2）の利用状況や、より効果的な活動を行うためにどのようなサービスを要望されているかについてヒアリングをとおして確認させていただくことで、貴方の活動がより効果的に行えるための施策（貴方が中小企業を支援する際に活用できる記事やコンテンツ等）を検討し、報告書として取りまとめる予定です。

お忙しい中お手数お掛けしますが、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

- （※1）「特許情報」とは、特許・実用新案・意匠・商標の出願・権利化に伴って生み出される情報（公報情報や経過情報等）、その他の知的財産権情報を含む情報を指します。
- （※2）「特許情報サービス」とは、特許情報の提供や特許情報の活用につながる情報や支援を提供しているサービス全般を指します（民間企業が提供するサービスも含む）。

（特許情報サービスの一例）

- ・ 特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）：<https://www.j-platpat.inpit.go.jp>
- ・ 中韓文献 翻訳・検索システム：<http://www.ckgs.jpo.go.jp/>
- ・ 知財ビジネス評価書作成の支援に係る紹介用のパンフレット
- ・ 知的財産権制度に関する説明会
- ・ その他民間による特許情報提供システムや知財関連セミナー等

＜注＞本ヒアリングシートは知財総合支援窓口や金融機関、中小企業診断士等を対象に送付しております。そのため、共通的な質問や例の記載について、ご担当者様の活動内容に当てはまらない記載が含まれている可能性がございます。

問 1-1. 中小企業に向けた知的財産に関する活動として行っている内容について具体的に教えてください。

(主な活動の概要)

- ・ 中小企業に知的財産を理解してもらうための普及活動
- ・ 中小企業からの知財を経営に活用したいとの要望や相談に対する支援
- ・ その他知的財産に関する活動

(例)

- ・ 中小企業へ直接訪問し、知財経営に関する要望や相談について対応する。
- ・ 中小企業向けに〇〇講師による特許情報の活用講座を開催する。
- ・ 民間企業や研究機関との知財のマッチング支援。

問 1-2. 問 1-1 で回答いただいた活動において、利用している特許情報サービスについて教えてください。また、どのように利用しているかについても併せて教えてください。

(例)

- ・ J-PlatPat を利用してライバル会社の特許情報を検索するための方法の案内に利用している。
- ・ 中小企業向けに商標取得に向けた説明会を開催している。
- ・ J-PlatPat を利用してグループワークで特許情報分析の基礎を学ぶ機会を設けている。

問 2-1. 問 1-1 で回答いただいた活動において、特許情報サービスを用いて活動の効果を高める為に工夫していることがあれば教えてください。また、なぜそのような工夫を行おうと思ったのか、工夫を実施することによりどのような効果があったかについても併せて教えてください。

(例)

- ・ 活動に有益と考えられる〇〇についての事例を取りまとめたパンフレットを作成し、担当企業が特許出願を検討することになった。
- ・ J-PlatPat の利用マニュアルを用いて特許情報の利用方法について教えている。
- ・ 商標に関する問い合わせが多いため、商標に関する知識が豊富な担当者を多く配置している。
- ・ 中小企業が興味を持つ特許情報に対する情報を共有する仕組みを有している。
- ・ 他の支援団体や民間のサービスから活動に有益と考えられる特許情報を収集している。

問 2-2. 問 2-1 で回答いただいた特許情報サービスを用いた工夫について、特にどのような中小企業に対して効果的と考えられるか、中小企業の特性等（※）があれば教えてください。

また、上記の中小企業に対して効果が高い理由についてもお考えがあれば併せて教えてください。

（※）中小企業の特性の例として、以下のような観点を踏まえお答えください。

- ・ 企業の業種、規模
- ・ 知的財産に対する取組状況（既に特許を取得している、これから取得したいと考えている、等）
- ・ 中小企業の知的財産に関する理解度
- ・ 知的財産の経営への活用方針
- ・ 相談を行う中小企業の職員の特性（知財関連組織に所属する担当者、本業との兼務、経営者、等）
- ・ 相談を行う中小企業の組織的な特徴（法務部等知財専門の組織の有無、等）

(例)

- ・ 〇〇の業種については社名や商品名が権利侵害につながるリスクがあるため、商標権を取得するメリットとデメリットを具体事例とともに提供することが効果的であると考えます。
- ・ 規模が小さい企業の場合、経営者が直接相談に来る機会が多いため、経営につながる情報（出願・維持に係る費用や、効果が出た事例）を提示することにより特許情報に対して興味を持ってもらうきっかけになった。
- ・ 〇〇出版の「よくわかる特許の仕組み」には知財に対する初歩的な知識から活用事例集まであるため、業種に限らず知財に関する初心者から熟練者まで幅広い相談に応じるために役立っている。

問 2-3. これまでの活動を踏まえ、特に特許情報に対して強い興味を持っている、又は特許情報を活用した実績を有している中小企業の特性等（※）があれば教えてください。

また、上記の特性を有する中小企業が特許情報について興味を持つ又は活用している理由についても

お考えがあれば併せて教えてください。

(※) 問 2-2 と同様の観点になります。

(例)

- ・ ○○業は、海外展開を考えている企業が多く、海外の法律について把握していないため、特許取得等について相談を受ける機会が増えており、興味を持っている様子。
- ・ ○○の業種は、特許や意匠に関しては興味が見られない一方で、製品のブランド化を考えている企業が多く、商標に関して積極的に相談に来ることが多い。
- ・ 業種に限らず、自社の技術力を対外向けにアピールしたいと考えている企業からの相談が多い。

問 2-4. 問 1-1 で回答いただいた活動について、特にどのような中小企業に対して十分な効果が得られなかったか、中小企業の特性等（※）があれば教えてください。

また、効果が得られなかった理由についてもお考えがあれば併せて教えてください。

(※) 中小企業の特性の例として、以下のような観点を踏まえお答えください。

- ・ 企業の業種、規模
- ・ 知的財産に対する取組状況（特許は取得していないが興味はある、そもそも特許を取得する必要性を感じていない、等）
- ・ 中小企業の知的財産に関する理解度
- ・ 知的財産の経営への活用方針
- ・ 相談を行う中小企業の職員の特性（法務部等、知財に関連する組織に所属する担当者、経営者、等）
- ・ 相談を行う中小企業の組織的な特徴（法務部等知財専門の組織の有無、等）

(例)

- ・ 中小企業において知財に関する知識を有していない担当者が相談に来る場合、特許を取得するメリットはなんとなく理解してもらえたが、現状提供されている情報だけでは○○という点で具体性に欠けるため、経営者に訴求するには難しいと言われたことがあった。
- ・
- ・ ○○等の専門性が高い業界については、特許情報サービスを用いてもライバル企業の動向などを調べるのが難しく、十分な支援ができていないと感じる。
- ・ 現状の特許情報サービスでは、○○の業種の海外展開に関する事例が少ないため、興味を持っている企業に十分な支援が行えなかった。

問 2-5. これまでの活動を踏まえ、特に特許情報に対して興味を示さない、又は特許情報の活用に関する必要性が低いと経営者や担当者が考えている中小企業について、特性等があれば教えてください。
また、上記の特性を有する中小企業の経営者等が特許情報について興味を示さない、又は特許情報の必要性が低いと考えている理由についてもお考えがあれば併せて教えてください。

(例)

- ・ 特許に関するセミナーを定期的で開催しているが、〇〇の業種については参加者がほとんど見られない。業界の特性として特許を取得する必要性が少ない点や特許に関連する技術を所有していないためと考える。
- ・ 〇〇の製品については複雑性が小さいため、特許を出願して内容を公開するよりも、自社内の秘密のノウハウとする方が模倣の防止につながるため、当該製品を作る会社は特許情報に興味を持たないケースが多いと考える。
- ・ 特許が取得可能と考えられる技術を有しているが、当該技術を用いた製品の利益が少ないため、特許の出願や維持に対するコストをかけられない。

問 3-1. 問 1-1 で回答いただいた活動について、どのような特許情報サービスがあればより効果的な活動ができると考えますか。想定される利用方法と効果が高い中小企業の特性等についてもお考えがあれば併せて教えてください。

(例)

- ・ 出願から維持までの費用に関する見開き 1 枚程度の紹介記事があると、特許取得を勧めたい技術を持つ企業と出会った際に、その場で具体的な検討を促すことができる。
- ・ 特許取得による効果と取得しないことによるリスクがマンガ形式で作成されているパンフレット。
- ・ 需要が多いと予想される〇〇業に関する、中小企業と大企業、大学・研究機関との知財マッチングの事例集。
- ・ J-PlatPat において商標に関する調査について動画形式で操作方法を案内するコンテンツ。
- ・ 中国語、韓国語文献の翻訳結果がリアルタイムに確認できるサービス。
- ・ 開放特許データベースに掲載されている開放特許情報を用いた取引に係る事例。

問 4-1. 問 1-1 で回答いただいた活動以外において、中小企業が知的財産について理解を深めることを目的として行っていきたい活動（特許情報の普及に向けた活動）があれば教えてください。また、その活動が必要な理由と、特にその活動について効果がある中小企業の特性等についてもお考えがあれば併せて教えてください。

(例)

- ・ ○○業がよく支援を受ける機関や行くことが多い場所(○○)に対して、特許取得によるメリットが端的にわかるポスターを貼付する。

問 4-2. 問 4-1 で回答いただいた活動を効果的に行うために、どのような特許情報サービスがあると効果的な活動ができると考えますか。効果的である理由と、効果がある中小企業の特性等についても併せて教えてください。

(例)

- ・ 特許を身近に感じてもらうためのイベントを開催する。
- ・ SNS や一般的な Web サイトを用いて、特許に関する情報を発信する。
- ・ 特許取得に関する説明会について、開催箇所・回数を増やす。

問 4-3. 問 1-1 で回答いただいた活動以外において、中小企業が知的財産を経営に活用することを目的として行っていきたい活動(支援に関する活動)があれば教えてください(問 4-1 では「普及に関する活動」について伺っていますが、本項目では「支援」に関する質問になります。)。また、その活動が必要な理由と、特にその活動について効果がある中小企業の特性等についてもお考えがあれば併せて教えてください。

(例)

- ・ 特定地域の大企業に同じ地域の中小企業の特許情報を紹介する技術情報のマッチング支援。

問 4-4. 問 4-3 で回答いただいた活動を効果的に行うために、どのような特許情報サービスがあると効果的な活動ができると考えますか。効果的である理由と、効果がある中小企業の特性等についても併せて教えてください。

(例)

- ・ 特許マップの活用事例集。
- ・ 他の中小企業支援機関（よろず支援拠点等）との包括的な中小企業支援サービスの設立。

問 5. これまで回答いただいた内容以外に、特許情報サービス全般に対する要望があれば記入してください。

質問事項は以上となります。ご協力ありがとうございました。